学校通信

我が輩はトラフズク

令和７年３月２４日　No.１２

創造・感動・笑顔　　弘前市立第三中学校（担当：教頭　前田　達哉）

季節は「青春（アオハル）」に向って

校長　小笠原　恭史

文部科学省HP：「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」に、“子どもの心の発達”について、学童期：小学校低学年は「～大人の言うことを守る中で、善悪についての理解と判断ができるようになる～言語能力や認識力も高まり～」、高学年では「自分のことも客観的にとらえられるようになる～自己肯定感をもちはじめる時期であるが、～劣等感をもちやすくなる時期でもある。～自分たちで決まりを作り～守るようになる～一方、閉鎖的な子どもの仲間集団が発生し、付和雷同的な（自分のしっかりとした考えではなく、周りの意見に同調する・流されるような）行動が見られる場合もある」とあります。青年前期：中学生になると「～自分独自の内面の世界があることに気づきはじめ～、自意識と客観的事実との違いに悩み、様々な葛藤の中で、自らの生き方を模索しはじめ～大人との関係よりも友人関係に自らへの強い意味を見いだす～」とあります。そして、高校生になると「～社会へ参画・貢献する～大人の社会でどのように生きるのかという課題に対して真剣に模索する～他者の善意や支えへの感謝の気持ちとそれにこたえる～社会の一員としての自覚をもった行動」ができるようになっていくとありました。

あなたは、どの段階にいますか。

青年前期の頃からを「青春（アオハル）のとき」といいます。（昔は「せいしゅん」といいました。）大人の言うことを踏まえるも、自分で考え、友だちに相談して。また、周りと違う「自分」に気づきはじめ、学童期の付和雷同な集団に“自分らしく生きる人”が現れるこの頃は、母なる大地から多種多様な命が芽吹く「春」に例えられます。

「青春のとき」は、好きなもの、考え、感じ方など、どんどん人と違っていきます。それは自分らしく（大人に）なっていくことなのですが、そうとは思えず、みんなと違う自分に悩んだり、自分の中にもう一人の自分が現れて、“なりたい自分”と、現実の“そうでない自分”とのギャップに悩んだりもします。とても心が揺れる～右往左往、試行錯誤を繰り返し、大人に向かっていく頃です。

“大人への兆し”は、どのように生きるかを考える、他者の善意や支えに感謝を抱く自分の現れです。もしかすると、大人とは１８歳など年齢ではなく、この段階に至るかなのだと思います。

７８年の歴史を誇る三中にて「青春のとき」を迎え、みなさんで謳歌する令和７年度にしていきましょう。

お世話になりました。～よろしくお願いします。

■今年度の教職員人事異動が発表されましたので、お知らせします。

■転出者
教　諭：菊地　貴幸（田舎館村立田舎館中学校　教頭へ）
教　諭：村上　友美（弘前市立東中学校へ）
教　諭：大谷　知子（青森県立弘前第一高等養護学校へ）
教　諭：永野　孝明（藤崎町立藤崎中学校へ）
教　諭：黒滝　悠奈（弘前市立第四中学校へ）
養護教諭：中村　万菜（外ヶ浜町立蟹田小学校へ）
講　師：松本　毅（弘前市立第一中学校へ）
講　師：小野　精顕（平川市立平賀西中学校へ）
講　師：越村　径代（弘前市立千年小学校へ）
講　師：武田　一将（弘前市立相馬中学校へ）
技能主事：川村　大輔（市長部局・建設部へ）
技能主事：福士　昭彦（青森県立弘前工業高校へ）

■転入・採用者
教　諭：戸澤　康之（弘前市立津軽中学校より）
教　諭：中村　正道（弘前市立第二中学校より）
教　諭：山形　紀雄（弘前市立南中学校より）
教　諭：福士みのる（弘前市立東中学校より）
教　諭：金光　直樹（十和田市立三本木中学校より）
教　諭：鎌田　敦揚（新採用）
養護教諭：船水　美里（新採用）
非常勤講師：一戸　諭（新規任用）
技能主事：笹田　悟（弘前市立千年小学校より）
技能主事：秋元　孝志（新規任用）
特別支援教育支援員：秋田　英一（弘前市立時敏小学校より）

中庭のシゲの樹

転出する先生方には、大変お世話になりました。また、転入なさる先生方には、次年度から、よろしくお願いいたします。

4月の主な行事予定

4日（金）　新入生学級発表（13:00～16:00）
7日（月）　出校8:05、新任式、入学式準備
　　入学式・始業式　※弁当持参
8日（火）　平常①～③総合、④全校集会
　　⑤学活　※給食開始
9日（水）　平常①学活、②③身体測定・写真撮影
　　④新入生歓迎会、⑤⑥部活動紹介
10日（木）　平常①全校集会、②③④認知能力検査
　　⑤⑥授業
11日（金）　平常①～⑤、標準学力検査
14日（月）　短縮①～⑥、生徒会委員会組織会
15日（火）　平常①～⑥、交通安全教室、尿検
16日（水）　平常①～⑤、３年：全国学力・学習状況調査
17日（木）　平常①～⑥、１年：心電図検査
　　３年：全国学力・学習状況調査
18日（金）　短縮①～④、⑤授業参観
　　後援会総会、ＰＴＡ総会、学級懇談
21日（月）　短縮①～⑥、生徒会委員会
22日（火）　平常①～⑥
23日（水）　短縮①～⑤、職員会議、校内研修推進委員会①
24日（木）　平常①～⑥、学校運営協議会①
　　３年：内科検診
25日（金）　短縮①～⑥、部活動組織会、3年：歯科検診
28日（月）　短縮①～⑥、指導部会
30日（水）　短縮①～③、中教研組織会
　　※給食なし

＊変更になる場合もあります。

今年度、保護者の皆様、地域の皆様には本校の教育活動へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

振り返ってみますと、４月、ＰＴＡ活動を円滑に進めていくにあたり、ＰＴＡ学年委員及び専門委員の選出に、ついてアンケート式とし、多くの保護者の方に参加していただきながらスタートしました。８月には成人教育委員会が主催し、「第三中学校の子どもたちの未来に向けて語る会」を行い、校長から学校の現状をを伝え、今後の方針・取組を保護者や地域の方々に説明することができました。また、市連Ｐスポーツ大会やＰＴＡ広報、夏休み等の「生活の心得」の作成、小中ＰＴＡ連絡協議会、三中祭での活動等、たくさんご協力をいただきました。

さて、ＰＴＡ活動は学校教育の充実に資する重要な活動であります。Ｐ（保護者）とＴ（教師）が「学校」や「教育」等について言葉を交わす場としての役割を、今後一層大切にしていきたいと考えております。

これからも、持続可能な在り方を検討しながら、活動を推進して参ります。次年度もよろしくお願いいたします。（教頭）

第７６回　卒業証書授与式

３月９日（日）、第７６回卒業証書授与式が挙行されました。式辞では、「卒業証書は、青春（あおはる）のときを生きた証です。生きて高まった人としての力を結集して、これからを生きていってください」と、ＰＴＡ会長からは「これからは挑戦の連続であり、自信をもって夢に向かって羽ばたいて欲しい」と祝辞をいただきました。

＊ここに「三中」を感じていただきたく『送辞』と『答辞』を掲載します。

送辞

例年になく雪が降り積もり、寒さの厳しかった冬も終わりを告げ、うららかな春の香りが感じられるようになりました。今日のこの佳き日、この第三中学校を巣立っていく三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

今、卒業証書を手にした先輩方を見ていると数々の思い出が浮かんできます。二年前、期待と不安を胸に臨んだ入学式、私たちは先輩方の温かさに触れました。先輩方は、何も分からない私たちに、優しく声をかけてくださり、温かく導いてくださいました。そのとき、私の心に「感謝」の気持ちだけではなく「憧れ」の気持ちが強く刻み込まれたことを今でも覚えています。振り返ってみると、学校生活の様々な場面で先輩方の存在は大きく、たった一年しか年が離れていないのに、とても高い所にいるように感じていました。部活動では、入学したばかりの初心者である私にも、分かりやすく細かく丁寧に教えてくださいました。中体連団体戦で負けてしまったときも「大丈夫だよ。」と励ましてくださり、その後の先輩方の優しく丁寧なご指導のおかげで勝利することが出来ました。そして、スポーツの素晴らしさ・楽しさを改めて知ることが出来ました。また、委員会活動では、生徒一丸となって、より良い学校にするために活動している姿を目の当たりにして、私たちも「そのようになりたい。」と思うようになりました。特に、三年間の集大成ともなった三中祭では、先輩方の夢と希望あふれる姿に、胸を打たれました。三中祭が、これまでにないほどの盛り上がりで、大成功をおさめることができたのは、生徒会執行部や委員長の皆さんをはじめとする先輩方一人一人の努力の賜だと思います。心より感謝申し上げます。私自身を考えてみると、三中祭の準備期間から執行部として先輩方と関わる時間が多くありました。準備期間のある日、こんなことがありました。準備を進める中で、急遽必要なものができ、私は生徒会室に戻り、一人で作っていました。すると、すぐに「手伝うよ。」と先輩方が駆けつけてくださいました。先輩方と一緒に作り、無事、間に合わせることが出来ました。私は、先輩方の頼もしさを強く感じました。そして、全校生徒のために一生懸命に取り組む姿を見て、人のために何かをする楽しさを知るとともに、その大変さを学びました。同時に、伝統を守りながら新しいものを取り入れる大切さも学ぶことができました。三学期になると、部活動や生徒会活動を完全に一・二年生のみで行うようになりました。強く感じたことは、先輩方がいないという不安感でした。私たちは、これまでどれほど先輩方に支えられてきたのかがよく分かりました。そして、後輩たちの前に立ち、引っ張っていくことの責任の重大さを感じるようになりました。その上、先輩方から、この二年間、机の上だけでは得られないものをたくさん教えていただいたことに気付かされました。先輩方から学んだことを生かして、これから、前に向かって突き進んでいきます。

さて、私たち在校生は、今、「三中の伝統」という襷を受け取りました。今まで、先輩方に見せていただいたような、大きく、安心感のある背中を後輩に見せられるように、精進していきます。そして、目に見えない「心」の部分もしっかりと受け継いでいくことを約束いたします。最後になりますが、先輩方とともに、学校生活を送ることが出来て、私たちは、とても幸せでした。先輩方が、これから進むそれぞれの道で、どんなに高い壁が立ちはだかろうと、力強く立ち向かい、大きな夢を実現することを信じています。先輩方の、更なる活躍を祈念し、送辞といたします。

在校生代表　平山　瑞月希

答辞

例年にも増して厳しかった冬を乗り越えた今、春の弘前を彩る桜の蕾が膨らみ始める季節となりました。本日は、私たち百五十二名の卒業生のために、このような晴れ晴れとした式を挙行していただき、ありがとうございます。先生方をはじめ、ご来賓の皆様や保護者の皆様、在校生の皆さんのご臨席をいただき、旅立ちを迎えられることを嬉しく思います。

三年間を振り返ってみると、第三中学校で過ごした日々の思い出が、私の心に蘇ってきます。ひとまわり大きな制服を身にまとい、新鮮な気持ちで臨んだ入学式。希望と緊張が入り交じった返事をしたあの日から、私たちの中学校生活が始まりました。新たな仲間や先輩との出会いに恵まれた一年生。初めての連続で不慣れなこともありましたが、先輩や先生方の支えを頼りに日々の活動をこなしていました。仲間と共に後輩たちを率いる立場となった二年生。コロナの影響が残っていた行事も本来の姿を取り戻し、貴重な経験を積むことができた一年でした。どの行事にも「最後の」が付くようになった三年生。修学旅行やスポーツフェスティバル、引退を背に全力で戦った中体連、合唱コンクールなど、様々な行事がありましたが、どれも私たち緑学年の絆を更に強くするきっかけになりました。中でも特に忘れられないのが、第七十五期三中祭です。伝統と新しさを融合させ、夢と希望溢れる三中祭を創ることを目指し、私は準備に取り掛かりました。幾度も、その難しさや大変さに苦悩しましたが、納得のいくまで仲間と対話を重ねたことにより、学級、学年の垣根を越えて楽しめる三中祭にすることができました。まさに、「想像と感動、そして笑顔」を象徴する、三年間で最高に盛り上がった三中祭でした。このように、私たちがたくさんの素晴らしい思い出を胸に、卒業の日を迎えられたのは、ここにお集まりいただいた皆様の支えがあったからです。部活動や生徒会活動に、私たちと共に取り組んできた在校生の皆さん。後輩である皆さんの姿は、最高学年となった私たちに元気と希望の光を与えてくれました。この三中の伝統をしっかりと継承し、更なる発展に向けて、これからも進み続けてください。

どんな時でも私たちのことを思い、支えてくださった先生方。私たち一人一人の進路実現をはじめ、最高の思い出となった行事の企画など様々な場面で、多大なるご尽力を賜りました。一生に一度の中学校生活を、夢と希望溢れるものにできたのは、先生方の支えと私たちの深い絆があったからだと思います。今まで、本当にありがとうございました。そして、私たちにたくさんの愛情を注ぎ、ここまで導いてくれた家族。強い日差しが照りつけた夏の大会の時も、大雪に見舞われた冬の受験の時も、常に私たちを見守り、信じてくれたことを心から感謝しています。自分を信じきれず弱気になった時、優しく背中を押してくれたことを今も覚えています。これからも、まだまだお世話になりますので、どうぞよろしくお願いします。

ここで、三学年のみんなへ、私から伝えたいことがあります。私たちはこれまで、様々な困難に直面しても、みんなで力を合わせて乗り越えてきました。楽しかった時間も、ぶつかり合ってピリピリした空気も、今となっては、すべてがかけがえのない大切な思い出です。きっと明日もこの三中で会える、一緒にいることが当たり前すぎて、こんな別れの日が来るなど思いもしませんでした。四月からは、それぞれが進む道で新たな生活が始まります。新たな仲間との出会いが、私たちを待っています。しかし、もうそこには、隣にいるだけで自然と笑顔になれた、この仲間たちの姿はありません。そんな明日からの未来を、私たちはどのように生きていくのでしょうか。この問いを胸に、それぞれの道を歩んでいきます。制限時間は、私たちのこれからの人生です。解答用紙は、私たちのこれからの人生です。答え合わせの時を、私は見届けることができませんが、この仲間と共に過ごした記憶は、大人へと近づいていく私たちの力になり、どんな時も励まし続けてくれることでしょう。私は、この第三中学校でみんなと出会い、たくさんのことを共に学び、共に走り抜いたことを誇りに思います。

今まで、本当にありがとう。この最高の仲間百五十二名は、今日でこの第三中学校を旅立ち、それぞれの夢に向かって、それぞれの道を歩み始めます。進む道は違っても、共に過ごした三年間の思い出と、永遠に変わらない私たちの絆を胸に、未来へと羽ばたいていきます。これまで、私たちを支えてくださったすべての方々に感謝するとともに、私たちを育ててくれた、この第三中学校の更なる発展を心よりお祈りし、答辞といたします。

卒業生代表　種市　絢